

「中国」などで企業マインドが悪化～消費は堅調だが、先行き高まる不透明感

2025年4月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 田邊 美穂
研究員 高須 百華

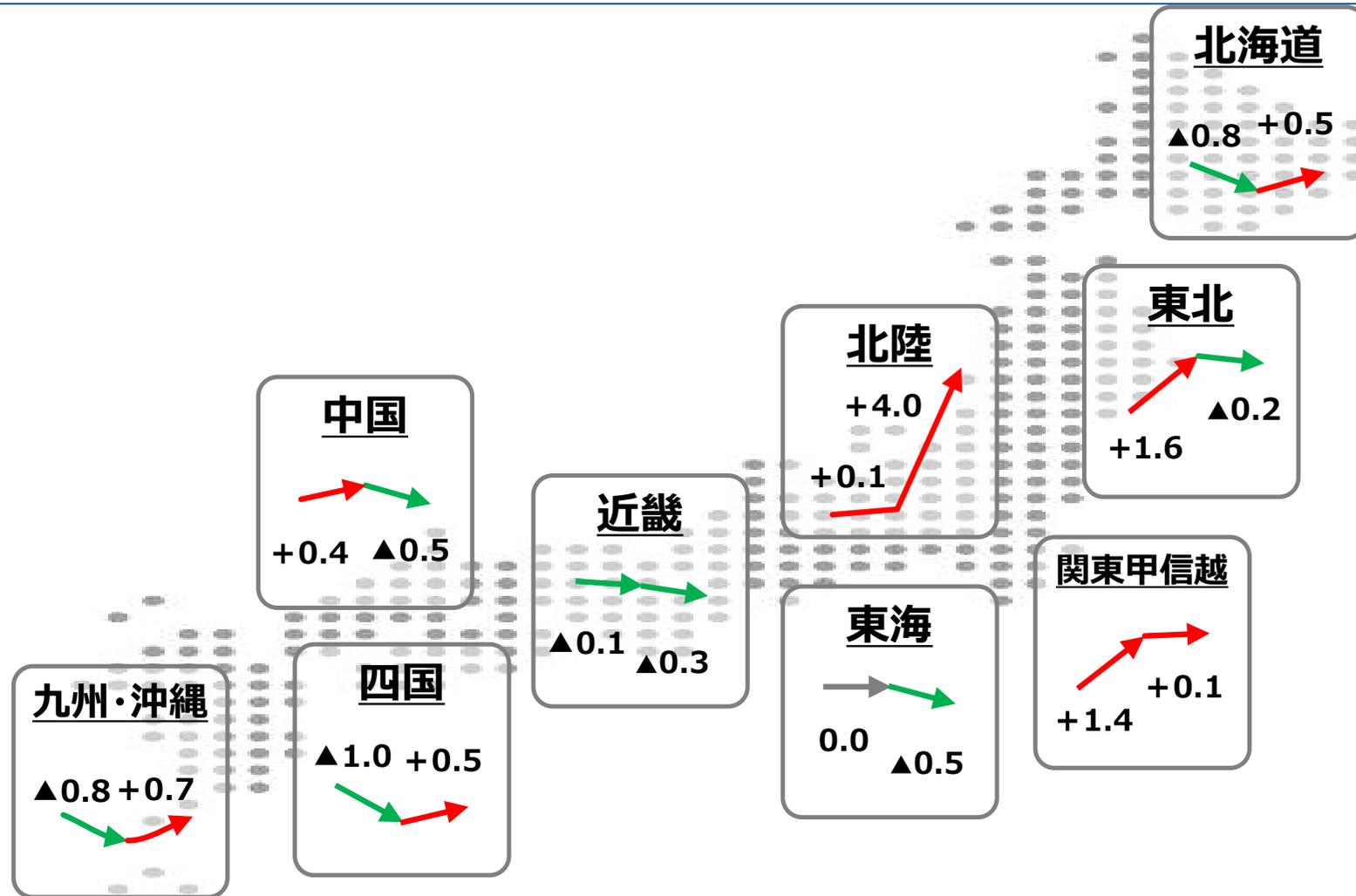
[要約]

- 2025年4月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「北陸」を筆頭に5地域で改善した一方、「中国」など4地域で悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「北陸」「北海道」「四国」などで改善した。「北陸」では乗用車販売や観光が改善しており、「北海道」ではさらに百貨店・ドラッグストアの売上や家電販売でも改善が見られる。「四国」ではコンビニエンスストアの売上高や家電販売が改善した。住宅投資は前回から大きな変化は見られなかった。雇用・所得環境は特に地震の影響が弱まった「北陸」で改善が顕著だった。企業関連では、対事業所サービスや輸送用機械などの改善が寄与して「九州・沖縄」で改善した。しかし、「中国」などでは輸送用機械、「中国」「東北」「北陸」「近畿」などでは宿泊・飲食サービス、「北陸」「中国」「四国」では電気機械、そして「東海」では建設や鉄鋼の影響により、企業マインド全体が悪化した。生産は、「北陸」で繊維や生産用機械が改善しており、「四国」では化学、そして「東北」では生産用機械などが改善しつつある。一方、「九州・沖縄」では鉄鋼・非鉄金属で生産が悪化している。輸出は、「北海道」で米国向け自動車部品の輸出が改善した。米国通商政策の動きを意識した駆け込み需要の影響と考えられる。設備投資は「四国」などでわずかに改善したが、「北海道」などではやや悪化した。公共投資の動向については前回から大きな変化は見られなかった。
- 全国的に見ると、これまでのところ日本経済は緩やかな回復基調にある。消費は多くの地域で堅調であり、特に家電販売や乗用車販売、そしてインバウンド客の増加やイベント関連の消費盛り上がりもあり観光業などが好調だ。しかし、米国のトランプ政権による通商政策の大きな変化を意識して、既に企業マインドの悪化が広がりつつあり、インデックスを押し下げている。こうした企業マインドの悪化が続けば、企業の投資意欲の低下につながり、これが経済全体の回復を鈍化させる可能性がある。消費は引き続き物価高の影響などにも注意が必要だろう。今後は、トランプ政権の「相互関税」が世界経済に与える影響を注視すべきだ。消費者の節約志向などが強まり、消費にも悪影響が出てくる可能性がある。地域経済を取り巻くこれら不透明感の高まりが懸念される。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発は、デジタルソリューション研究開発部データアナリティクスグループが担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4o ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (24年10月→25年1月、25年1月→4月)



(注1) 各地域の数値は、2024年10月から2025年1月の変化幅と2025年1月から4月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（25年1月→4月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+0.5	赤	白	緑	白	白	白
東北	▲0.2	白	白	白	白	白	緑
北陸	+4.0	赤	白	白	白	赤	緑
関東甲信越	+0.1	白	白	白	白	白	白
東海	▲0.5	白	白	白	白	白	白
近畿	▲0.3	赤	白	白	白	白	緑
中国	▲0.5	白	白	白	白	白	緑
四国	+0.5	赤	白	赤	白	白	緑
九州・沖縄	+0.7	白	白	白	白	緑	赤

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

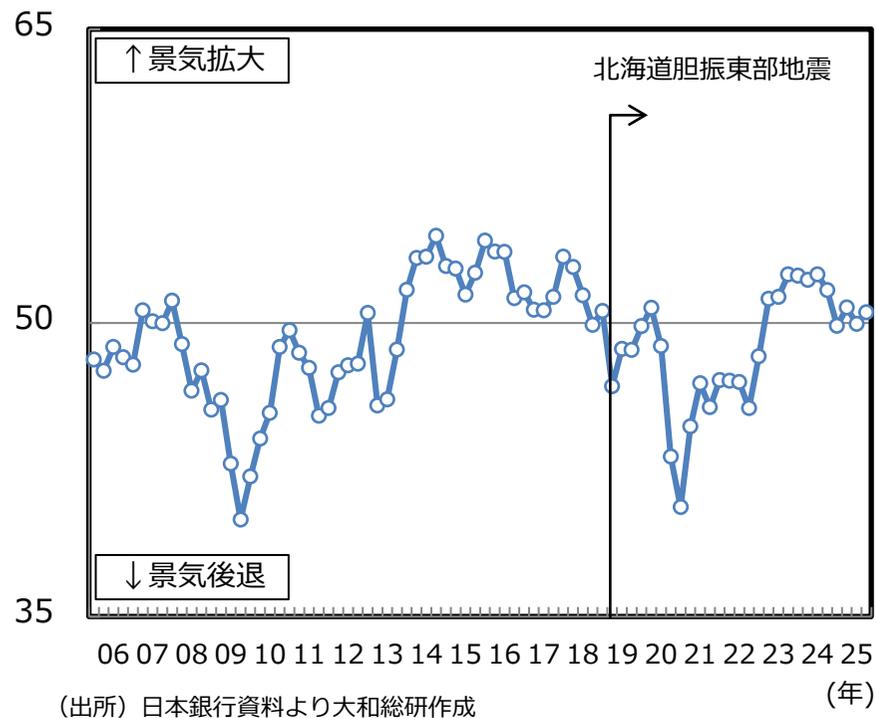
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (25年1月→4月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25年1月:50.0→4月:50.5)。設備投資がやや悪化したものの、消費や輸出などの改善がインデックスを押し上げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25年1月:52.0→4月:51.8)。生産などが改善したものの、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25年1月:46.8→4月:50.8)。企業マインドが悪化したものの、消費や生産、雇用・所得環境の改善がインデックスを押し上げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した(25年1月:52.9→4月:53.0)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。
東海	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25年1月:56.2→4月:55.7)。企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25年1月:53.0→4月:52.7)。消費が改善したものの、企業マインドなどの悪化を受けてインデックスは低下した。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25年1月:51.5→4月:51.0)。消費などが改善したものの、企業マインドの悪化を受けてインデックスは低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25年1月:49.9→4月:50.4)。企業マインドが悪化したものの、消費や設備投資、生産の改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25年1月:51.0→4月:51.7)。生産などの判断が悪化したものの、企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 1 月:50.0→4 月:50.5)。
- 設備投資がやや悪化したものの、消費や輸出などの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は百貨店やドラッグストアの売上が改善しているだけでなく、家電や乗用車の販売、観光でも改善している。輸出は米国向け自動車部品において改善しており、背景には米国通商政策の動きを意識した駆け込み需要の影響があるとみられる。

大和地域 AI インデックスの推移



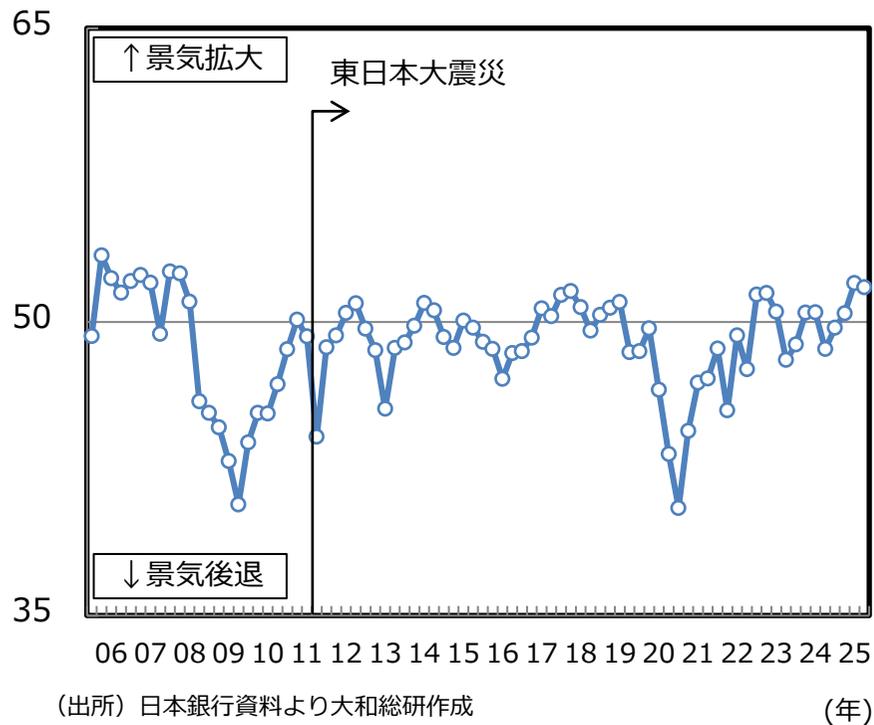
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、 持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、 持ち直している
【消費：百貨店】	↑
回復のペースが鈍化している	回復している
【輸出】	↑
回復している	緩やかに増加している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25 年 1 月:52.0→4 月:51.8)。
- 生産などが改善したものの、企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービスや非鉄金属、金属製品などで悪化した。一方、生産は旺盛な生成 AI 関連投資に支えられ、生産用機械などにおいて改善しつつある。

大和地域 AI インデックスの推移



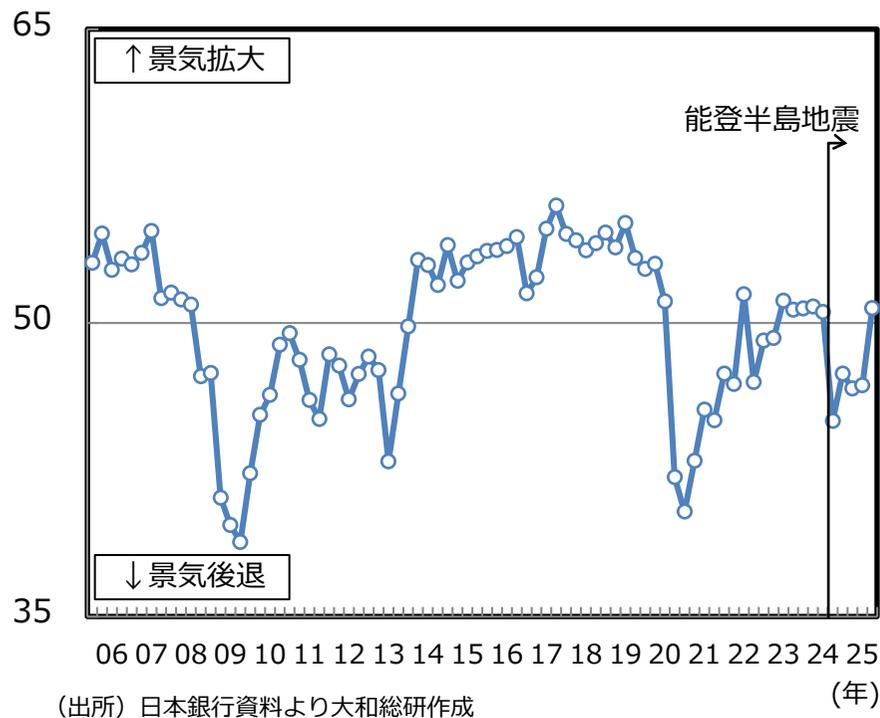
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	横ばいとなっている
【生産】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で上昇した(25 年 1 月:46.8→4 月:50.8)。
- 企業マインドが悪化したものの、消費や生産、雇用・所得環境の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は乗用車販売や観光で改善しており、雇用・所得環境は特に地震の影響が弱まったこともあり改善が顕著だった。さらに生産でも、繊維や生産用機械で改善が見られた。一方、企業マインドは飲食・宿泊サービスや電気機械などがマイナスに影響。

大和地域 AI インデックスの推移



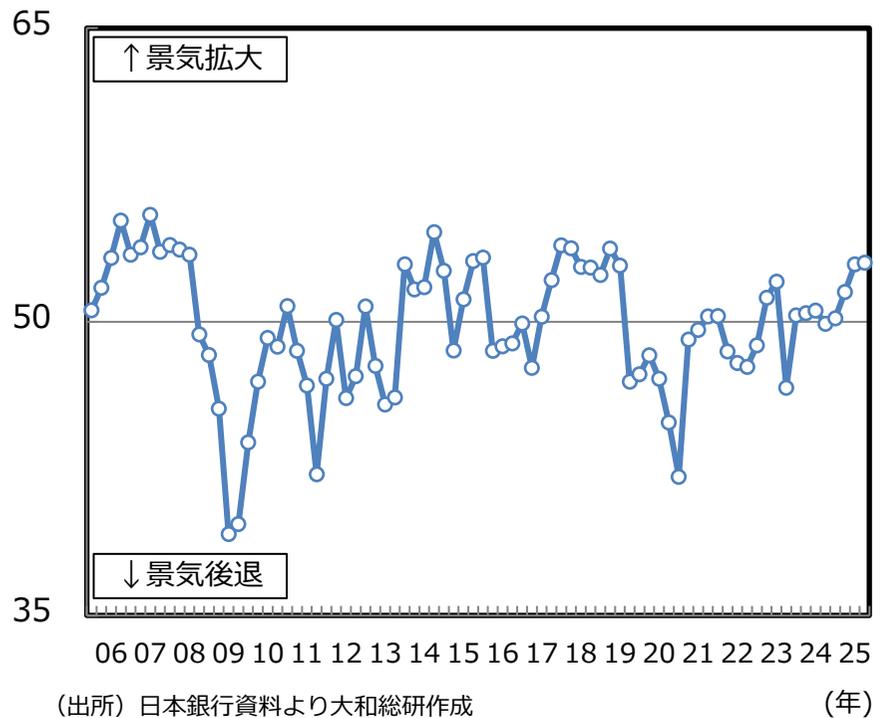
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
一部に能登半島地震の影響がみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【個人消費】	↑
物価上昇の影響に加え、一部に地震の影響がみられるものの、持ち直している	物価上昇の影響などがみられるものの、持ち直している
【雇用・所得環境】	↑
一部に地震の影響がみられるものの、持ち直している	持ち直している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した(25 年 1 月:52.9→4 月:53.0)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスはわずかな上昇にとどまった。

大和地域 AI インデックスの推移



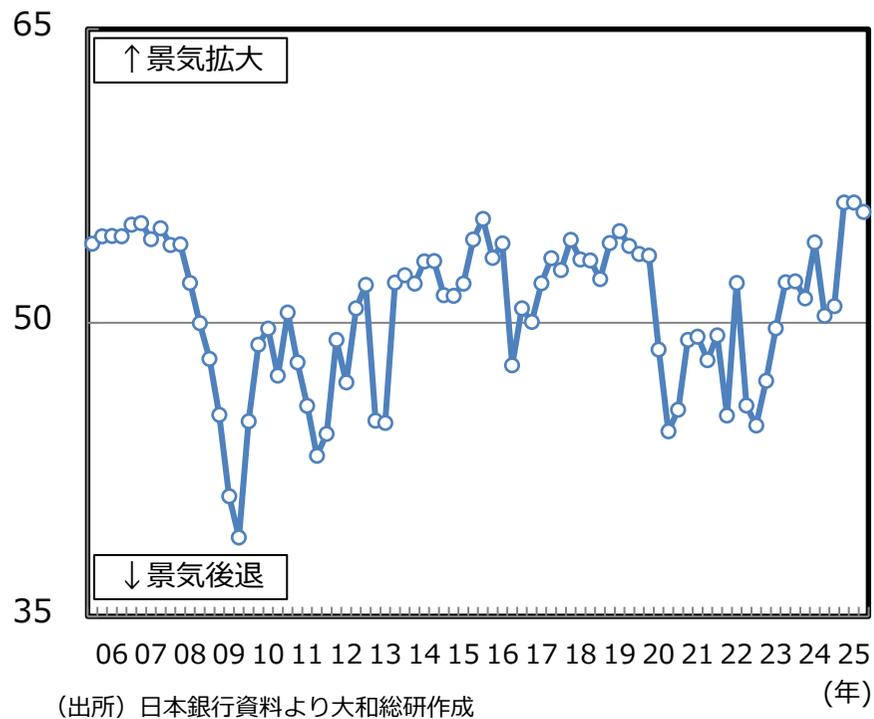
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている
【住宅投資】	→
弱めの動きとなっている	弱めの動きとなっている

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(25 年 1 月:56.2→4 月:55.7)。
- 企業マインドの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドでは、鉄鋼や建設などのマイナスの影響が全体の悪化につながった。

大和地域 AI インデックスの推移



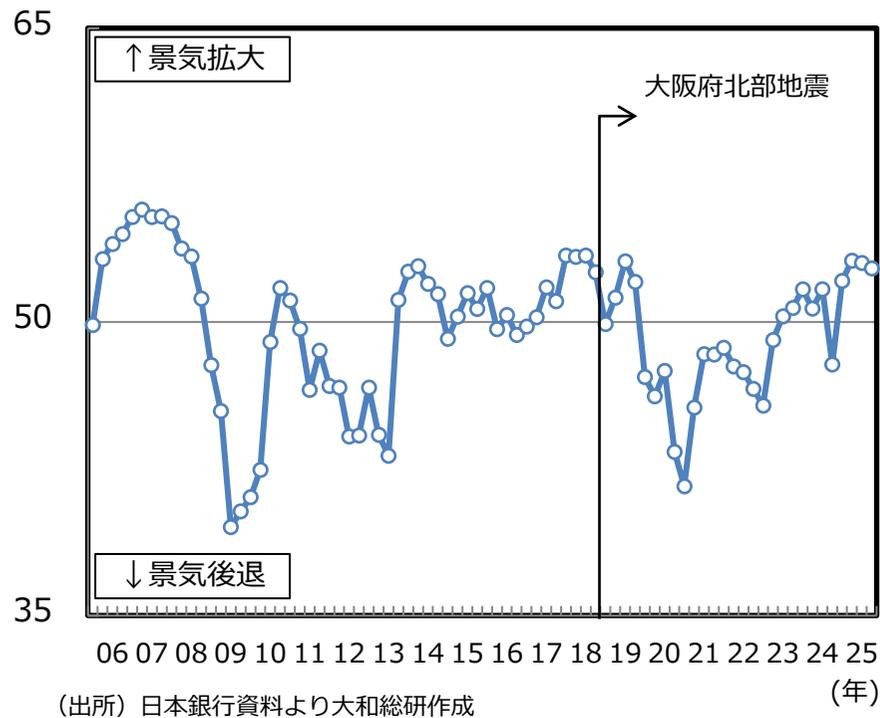
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【輸出】	→
増加基調にある	増加基調にある
【生産】	→
増加基調にある	増加基調にある

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(25 年 1 月:53.0→4 月:52.7)。
- 消費が改善したものの、企業マインドなどの悪化を受けてインデックスは低下した。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービスだけでなく、建設、繊維、金属製品、はん用・生産用・業務用機械などでも悪化した。特に中小企業を中心とした企業マインドの悪化が見られる。

大和地域 AI インデックスの推移



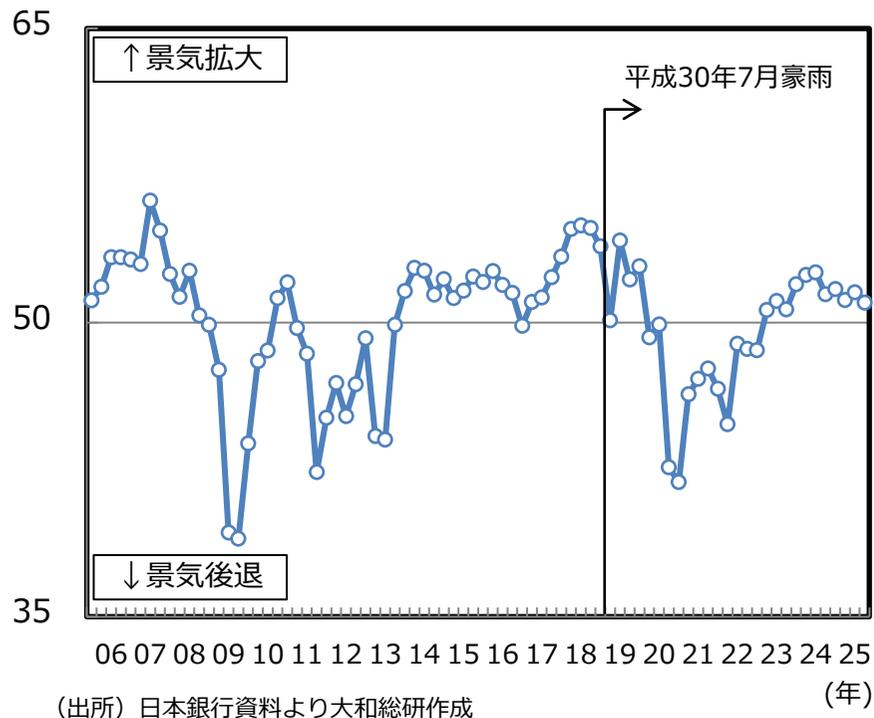
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↓
改善している	良好な水準を維持している
【生産】	→
横ばい圏内で推移している	横ばい圏内で推移している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(25 年 1 月:51.5→4 月:51.0)。
- 消費などが改善したものの、企業マインドの悪化を受けてインデックスは低下した。
- 企業マインドは輸送用機械や宿泊・飲食サービス、電気機械などで悪化している。一方、消費はコロナ禍の巣ごもり需要で購入された家電について買い替えサイクルが到来し始めている影響から、家電販売で改善しつつある。

大和地域 AI インデックスの推移



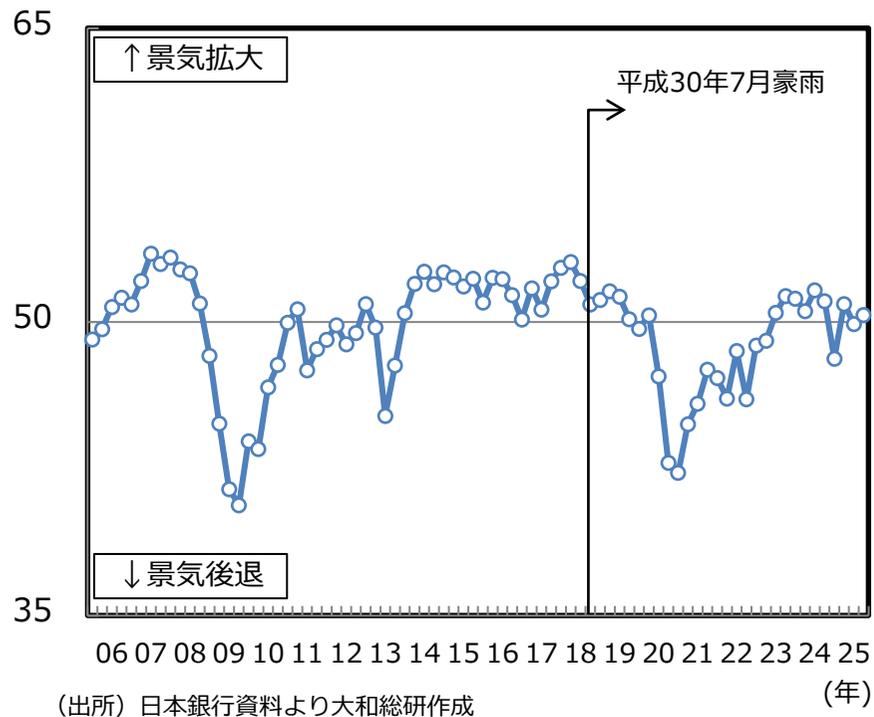
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【企業の業況感】	↓
小幅に改善している	幾分悪化している
【消費：家電販売】	↑
弱めの動きとなっている	持ち直しの動きがみられている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 1 月:49.9→4 月:50.4)。
- 企業マインドが悪化したものの、消費や設備投資、生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費はコンビニエンスストアの売上高や家電販売において改善し、生産でも化学で改善が見られた。一方、企業マインドは、電気機械や不動産、対個人サービス、宿泊・飲食サービスなどのマイナスの影響を受けて悪化している。

大和地域 AI インデックスの推移



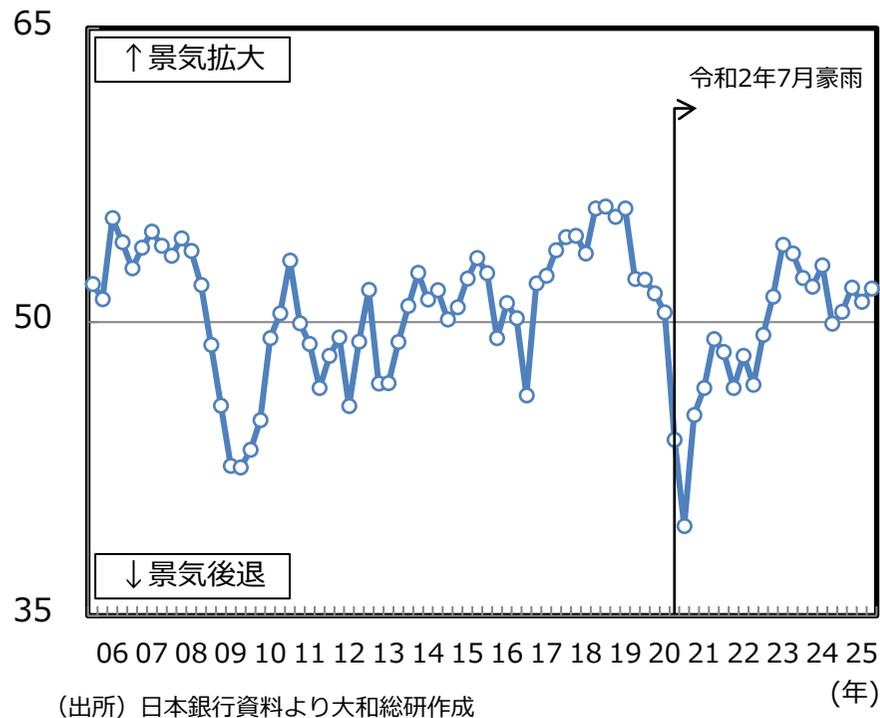
さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費：家電販売】	↑
弱めの動きとなっている	持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	横ばいとなっている

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(25 年 1 月:51.0→4 月:51.7)。
- 生産などの判断が悪化したものの、企業マインドなどの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは、対事業所サービスや輸送用機械などがプラスに寄与して改善した。一方、生産は、中国からの安価な建材の流入などを背景に、鉄鋼・非鉄金属で悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

25 年 1 月	25 年 4 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	改善している
【生産：鉄鋼・非鉄金属】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	弱含んでいる

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが**必要となる。
- 本レポートの特徴として、**AIモデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2025年4月7日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

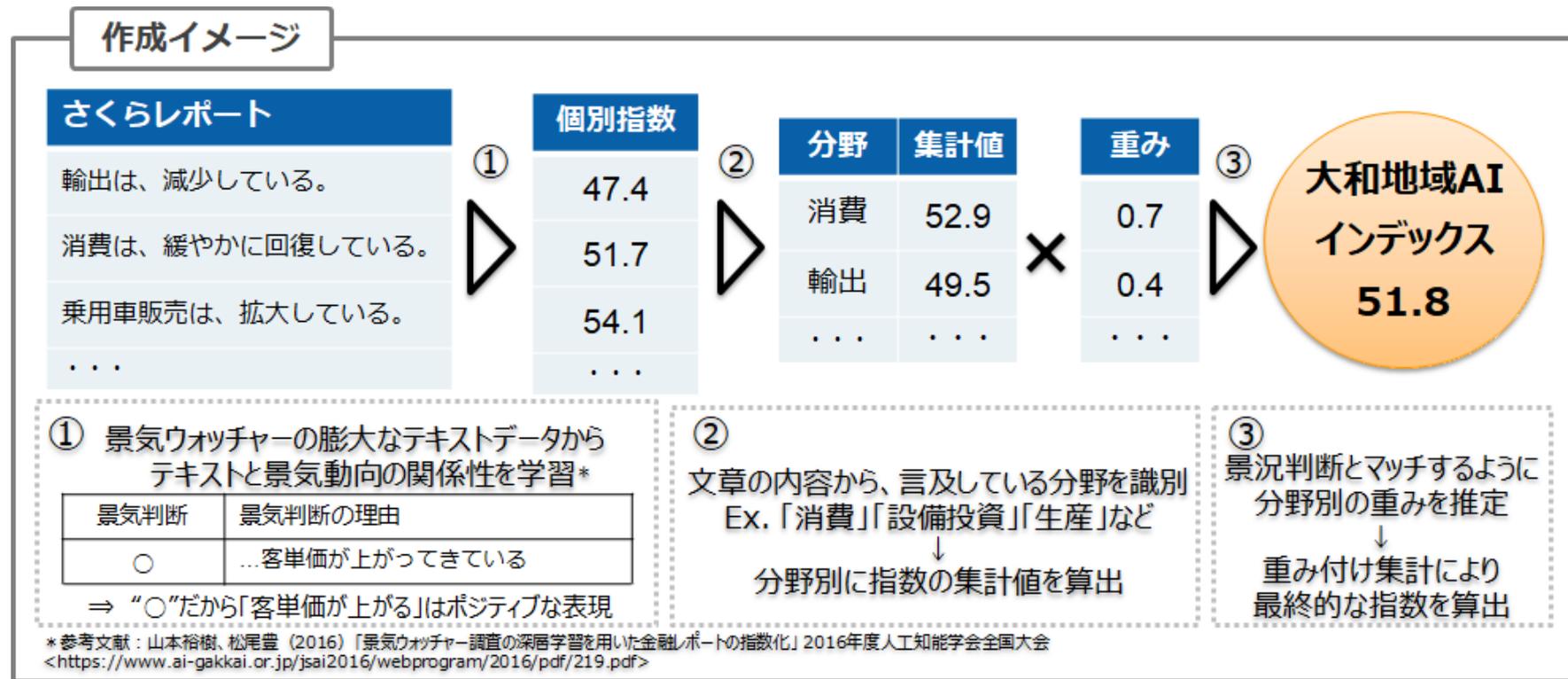
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成